

目次

Digital Life の歩き方	2
巻頭言	3
サービス	
ソフトウェアライセンスのご案内	4
ITC-LMS の利用状況について	6
資料	
SINET5 に向けての UTnet の対応状況	9
報告	
初年次ゼミナール 文科・理科 検索実習の実施に協力	11
30th International Supercomputing Conference (ISC'15) 参加報告	13
学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点公募型共同研究平成 27 年度採択課題について	17
学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点第 7 回シンポジウム開催報告	20
学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点ACSI 2015 JHPCN Special Session開催報告	22
その他	
現場の声 Vol. 1 ～ ネットワークと私 ～	23
教育用計算機システム(ECCS)相談員の声	25
新任教職員紹介	27
問い合わせ先	32



Digital Life の歩き方

本号が皆様のお手元に届く頃には、少し暑さも和らいでいるのでしょうか。執筆編集時点では、例年にも増して厳しい暑さが続いております。第25号となる本号では、学術情報研究部門長の中川教授より巻頭言として、大量のデータを扱うにあたっての課題について提言を頂きました。

また、ネットワーク研究部門長や情報システム部長をはじめとした、11名の新任教職員の方が着任されたため、それぞれの方からの自己紹介の記事を掲載しています。

本号の記事は、「サービス」「資料」「報告」「その他」の構成にて分類されています。「サービス」では、おなじみのソフトウェアライセンスのご案内や、ITC-LMS というシステムの利用状況について紹介します。

また「資料」では、今年度末に計画されている、学内基幹ネットワーク（UTnet）の更新に関して、外部組織との接続も含め、その方向性を述べています。100Gbps イーサネットの導入が検討されています。

「報告」では、学部一年生を対象として行われる、「初年次ゼミナール」への協力について報告しています。また、ISC '15 への参加報告や、学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点としての活動に関して報告がなされています。

「その他」では、新たな連載記事として、「現場の声」がスタートしました。これは、ネットワークチームを中心として、現場で業務を行っている職員からの生のメッセージをそのまま読者の皆様に伝えるという企画です。連載初回となる今回は、日々のネットワーク運用について徒然なるままに記事を執筆してもらいました。また、同様に連載記事となっている、「教育用計算機システム（ECCS）相談員の声」も掲載しています。学生からの問い合わせを直接受ける部所として、その最前線の活動が綴られています。

巻末には、情報基盤センターが行っている業務サービスに関する、問い合わせ先一覧を掲載しています。是非、センターへのお問い合わせの際にご活用下さい。

Digital Life は、情報基盤センターの広報誌です。情報基盤センターが行っているサービスや活動を理解して頂くために、わかりやすい紙面づくりを心がけていきたいと思っております。

（編集長 関谷 勇司）

巻頭言

海で漂流しているとき一番困るのは水がないこと、言い換えれば海水はいくらでもあるのにそれを飲料には使えないことです。現在はビッグデータの時代と言われるように情報はいくらでもあります、「使うことができない」という情報の海での漂流状態なのです。「使うことができない」原因をいくつか考えてみましょう。

(1) 大量の情報を扱う十分な計算機パワーが足りない。このことは情報処理技術にとっては継続的ないし永続的な課題です。情報基盤センターのスーパーコンピュータはまさにこの課題解決のために存在しているわけです。

(2) 大量かつ多様な情報を処理する理論に精通しプログラミングの能力のある技術者、研究者が不足している。これもしばしば話題になりますが、情報理工学系研究科ではそのための教育プロジェクトを鋭意、計画し推進しています。

さて、ここで焦点を当てたいのは、次の利用制約の話です。

(3) 情報の処理に係わる法制度からの利用制約がある。ビッグデータの中でも利用価値が高い多くの情報は個人情報です。医療情報、ゲノム情報、購買履歴、行動履歴、ネットワークを介した通信の記録、情報検索エンジンのクエリーログ、等々個人情報としてあげるものは多岐にわたるうえに、学問的価値、ビジネス上の価値が高いものばかりです。

ところで、情報処理技術に関係する多くの方は、個人情報保護法があるので、こういった高い価値の情報が使えなくて不便と考える傾向があるようです。だが、それはやや技術分野の中に閉じすぎた発想のようです。一例として、自分のゲノム情報を検査ビジネスの会社に分析してもらった場合について考えてみましょう。ゲノム情報から、かかりやすい病気が分かりますから、自分の生活態度を改善しようという使い方は健康的な使い方です。しかし、ある日、保険に加入しようとしたら、同じような年齢の人に比べてとても高額の入額が提示されました。そのうちに薬販売のネットショップから、「あなたの体質にはこのお薬が効果があり、少々お高いですが、お役に立ちます。」というターゲット広告メールが頻繁にやってくるようになりました。

そこで、自分のゲノム情報が漏洩したのではないかと思い、とりあえず検査ビジネスの会社との契約条件を読み直すと、「あなたのゲノム情報を他の目的で使用することがあります」と書いてありました。したがって、法的に会社を訴えることができないと悟ることになります。

個人情報保護法はこういった事態を防ぐことを目的にしている法律なので目の敵にすべきではないのです。が、同時に個人情報の利活用にも目配りしなければいけない法律であるため、なかなかデリケートな法律です。今年、改定が進められていますが、作業案の段階では収集した個人情報を目的外利用してよいという方向になりかけていました。幸い、学者、法律家、マスコミがこれに反対し、結局、政治家が対応して目的外利用は個人の同意なしにはできない法案になりました。しかし、多くの利害関係者が自分の利害に沿って動くという様子を目の当たりにし、情報技術者も法制度に無関心ではいけないと思うところです。

(学術情報研究部門長 中川 裕志)

ソフトウェアライセンスのご案内

情報基盤センターのソフトウェアライセンスサービスでは、現在以下の一覧にあるソフトウェアの学内ライセンスを提供しています。これらのソフトウェアの利用を希望される場合は、各利用内規等をご確認の上、申請手続きを行ってください。

ソフトウェア	メーカー	利用申込み	利用負担金 ^(注3) (課金単位)	問い合わせ先
ウイルスバスター (日本語版、英語版)	トレンドマイクロ (株)		1,000 円 / 年 (1 台)	
ServerProtect for Windows			5,000 円 / 年 (1 台)	
ServerProtect for Linux			10,000 円 / 年 (1 台)	
InterScan VirusWall 各エディション			100,000 円 / 年 (1 台)	
Sophos Anti-Virus (Windows 版、Mac 版)	Sophos (株)	年度単位 ^(注1) (自動継続)	1,000 円 / 年 (1 台)	anti-virus @ itc.u-tokyo.ac.jp
ESET Smart Security ESET Endpoint Security ESET NOD32 アンチウイルス ESET Endpoint アンチウイルス (Windows 版)	キャノンITソリューションズ(株)		1,000 円 / 年 (1 台)	
ESET NOD32 アンチウイルス (Mac 版)			1,000 円 / 年 (1 台)	
Symantec Endpoint Protection クライアント用 (Windows 版、Mac 版)	(株) シマンテック		1,000 円 / 年 (1 台)	
Creo Elements (旧 : Pro/ENGINEER Wildfire)	PTC ジャパン (株)	年度単位 ^(注2) (自動継続)	10,000 円 / 年 (1 申請)	proengineer @ itc.u-tokyo.ac.jp
JMP Pro	SAS Institute Japan (株) JMP ジャパン事業部		10,000 円 / 年 (1 申請)	jmp @ itc.u-tokyo.ac.jp
SAS	SAS Institute Japan (株)		50,000 円 / 年 (1 台) ^(注4)	sas @ itc.u-tokyo.ac.jp
Mathematica	Wolfram Research		50,000 円 / 年 (1 申請)	mathematica @ itc.u-tokyo.ac.jp
ChemOffice	Perkin Elmer (株) (旧 CambridgeSoft)		30,000 円 / 年 ^(注5) (1 申請 5 台まで)	chemoffice @ itc.u-tokyo.ac.jp

LabVIEW	日本ナショナルインスツルメンツ (株)	年度単位 ^(注2) (自動継続)	50,000 円 / 年 (1 申請)	labview @ itc.u-tokyo.ac.jp
LabVIEW アカデミー (e-ラーニング)		—	無料	
Adobe CLP ライセンス	アドビシステムズ (株)	—	—	東大生協にて取り 扱い (内線 : 27991)

(注 1) 利用を終了する場合あるいはライセンス数の変更を行う場合は、「コンピュータウイルス対策ソフトウェア利用変更届」を提出してください。

(注 2) 利用を終了する場合は、「利用廃止届」を提出してください。

(注 3) 基本利用負担金額を記載しています。
詳細および最新の情報は、Web サイト
(<http://www.software.itc.u-tokyo.ac.jp/>) をご覧ください。

(注 4) 複数台ご利用になる場合は、別途ご相談ください。

(注 5) 2015 年度の利用負担金です。毎年利用台数に応じて見直しを行います。

利用申込書等の提出およびお問い合わせ

利用申込書等の提出先

情報システム部情報システム支援課ソフトウェア管理チーム
(情報基盤センター 5 階事務室)

本サービスのご案内 Web サイト

<http://www.software.itc.u-tokyo.ac.jp/>

お問い合わせ用メールアドレス

software-license@itc.u-tokyo.ac.jp

(ソフトウェア管理チーム)

ITC-LMS の利用状況について

情報基盤センターでは学習管理システム「ITC-LMS」のサービス開始から1年が経過したことから、あらためて本サービスの概要ならびに利用状況などについてご報告いたします。

サービス概要

ITC-LMSは、学務システム（UTask-Web・UT-mate）に登録された講義をコースとして自動登録しています。登録されているコースでは、教材・講義資料の配布、課題の出題とレポートの受領、コメントの返却、小テストの出題と採点、出欠管理などを行なうことができます。さらに、アンケート、掲示板、通知機能なども提供しています。

ITC-LMSの利用には、学生は「学生共通アカウント（ECCS利用可）」、教職員は「学務システムアカウント」または、「ECCS教職員アカウント」を使用します。

機能追加・機能強化

ITC-LMSは、サービス開始から多数の利用者にご利用いただいておりますが、提供機能についてのご指摘、ご要望については、適宜検討を行い、対応を行ってまいりました。2014年度に行った機能追加・機能強化については、以下の通りです。

テスト機能の追加、強化

コース管理者（補助者）の動作確認機能、残り時間表示機能、設問の機能強化（穴埋め式の設問における配点方法、設問作成時のランダム入れ替え、選択順序入れ替え）、制限時間の警告メッセージ対応、採点ルールの変更機能、テスト全体の合計点表示機能など

コース全体における機能の追加、強化

文章のマークアップ機能、お知らせメール送信機能、課題の評価方法の拡大、ログ採取機能の強化、掲示板のユーザグループ対応、入力文字残数の表示機能、ログイン画面へのお知らせ表示機能、コース検索機能の強化など

学務システム共通アカウント、新学事暦（4学期制）対応

学務システム共通アカウント、新学事暦（4学期制）対応、パスワード同期頻度の増強、出席管理機能の強化など

利用状況

2014年度のITC-LMS利用状況は以下の通りです。

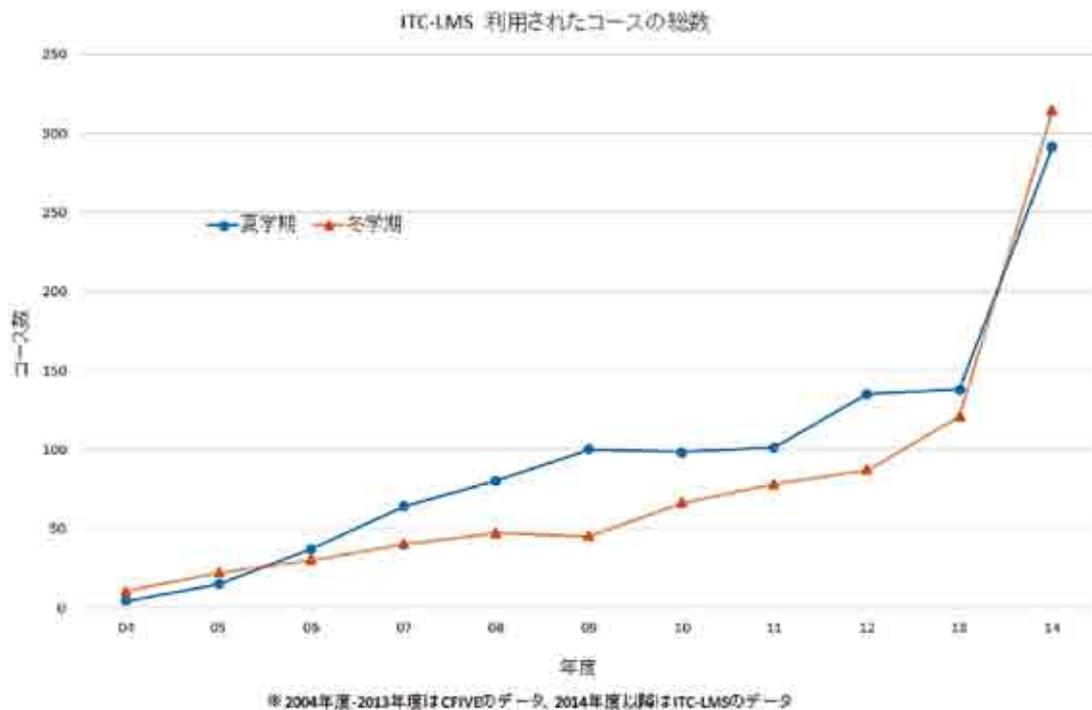


Fig.1 各年度における利用状況（コースの総数）

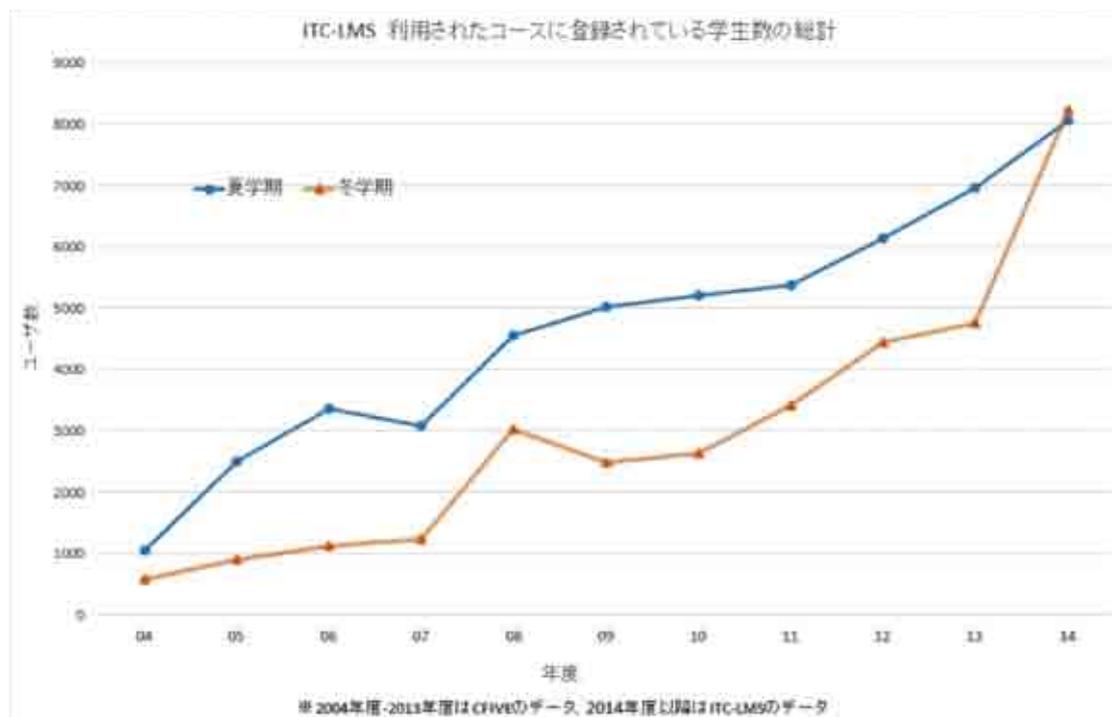


Fig.2 各年度における利用状況（登録されている学生の総数）

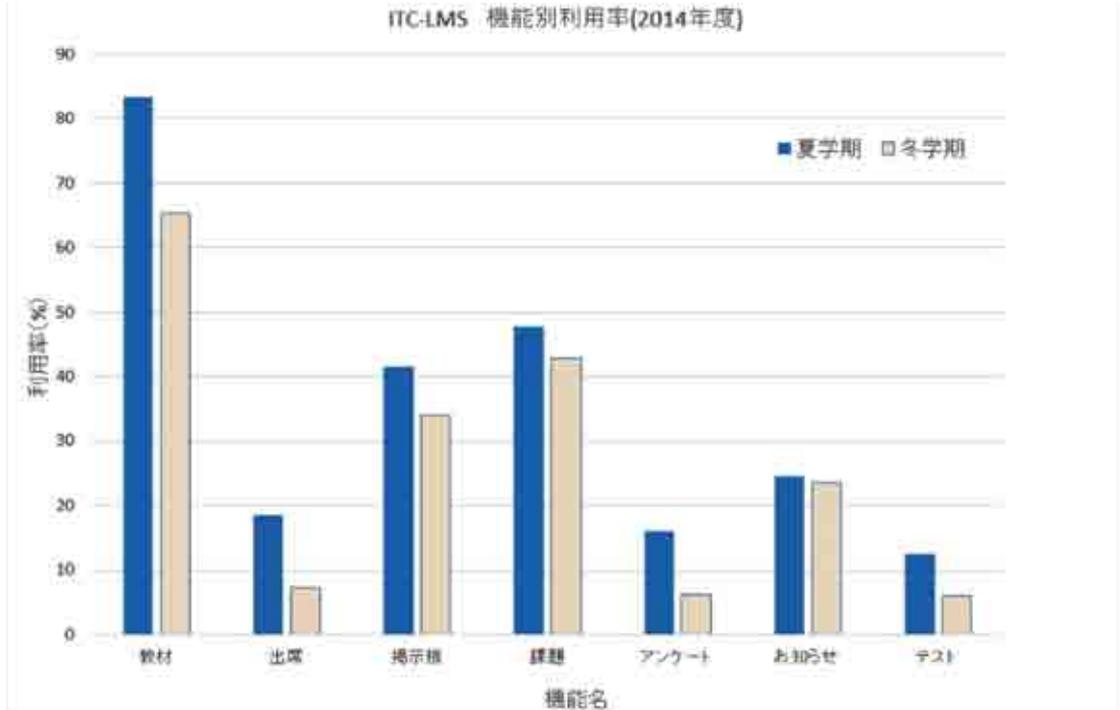


Fig.3 2014 年度における機能別利用率

本サービスのご案内 Web サイト (Web ページ)

<http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/itc-lms/>

<https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

お問い合わせ用メールアドレス

lms-support@itc.u-tokyo.ac.jp

(教育駒場チーム)

SINET5 に向けての UTnet の対応状況

東京大学の基幹ネットワークは、UTnetと呼ばれています。このUTnetは、研究活動に利用されるネットワークであり、東京大学とインターネットを接続し、学内の各部署が管理する建物までのネットワーク接続性を提供しています。現在のUTnetの構成概要を、図1に示します。

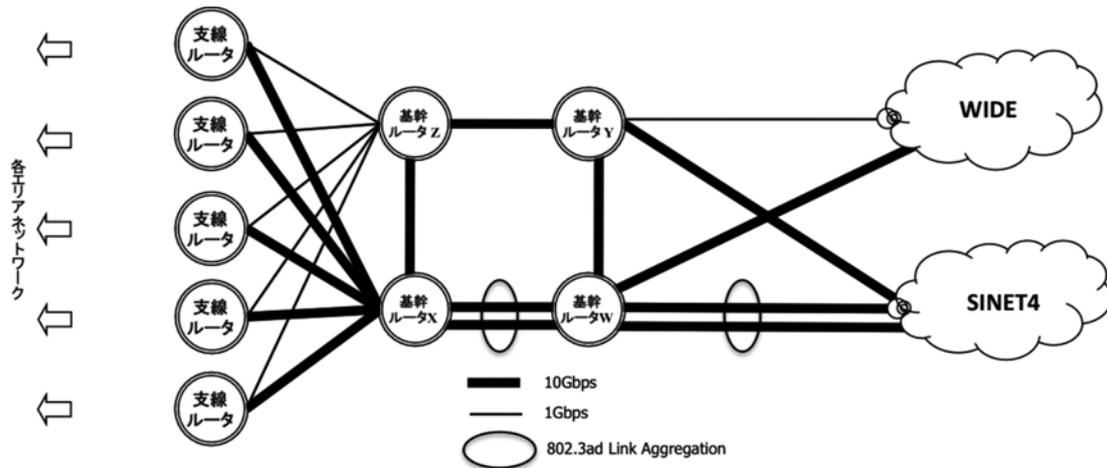


図1：UTnetの基幹部分概要図

この図の通り、UTnetのバックボーンの大部分は10Gbps Ethernetにて構成され、外部組織であるSINET4とWIDEに接続することで、インターネットに接続しています。この外部組織のひとつであるSINETが、2016年4月をもって更新され、SINET5になることが決定しています。SINETとは、学術情報ネットワークの略称であり、国立情報学研究所（NII）によって構築・運用されている、日本の学術ネットワーク基盤です。日本国内の多くの大学や研究機関がSINETに接続しており、インターネットへの接続性をSINETから得ています。現在のSINETはSINET4と呼ばれ、2011年4月より運用が開始されました。そして5年の運用期間を終了し、2016年4月よりSINET5が運用開始されます。

SINET5の大きな特徴は、基幹ネットワークが100Gbps以上の帯域にて構築されることです。つまり、SINET5接続組織は、100Gbps Ethernetを用いたインターネットへの接続が可能となります。UTnetも、このSINET5への切替に伴い、学内ネットワークの基幹部分を100Gbps化することを画策しています。HPCIの国内拠点連携や、海外組織との解析結果や解析データの大容量通信等、研究活動に利用されるネットワーク帯域は、日々増大しています。また、通常のユーザが研究活動等に利用するネットワーク帯域も、論文や資料のオンライン化、また動画データによる研究成果公開等により、一人ひとりのユーザが利用する帯域も増大傾向にあります。

このような傾向を受け、UTnetにおいても、100Gbpsに対応した機器の導入と、100GbpsにてSINET5に接続するための回線の導入を検討しています。

SINET5が運用開始となる2016年4月に合わせ、UTnetはそれぞれ100Gbpsの帯域にて、SINET5ならびにWIDEに接続することを計画しています。もちろん帯域だけではなく、学

内のユーザにとって使いやすく、障害に強く、安全性に優れたネットワークを提供することを目指します。セキュリティは昨今のネットワークにとっての大きな課題であり、特にエンドユーザやサービスに対するセキュリティ提供は、UTnetに求められる大きな課題の一つであると認識しています。

しかし、ネットワーク帯域が増大すれば、セキュリティ監視を行う機器の性能や台数も増やさなければならず、バランスが問われる点となっています。今後のUTnetの更新に関しては、UTnetのWebページ¹や、このDigital Lifeにて、情報を随時提供していきます。

(ネットワーク研究部門 関谷 勇司)

¹<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/>

初年次ゼミナール 文科・理科 検索実習の実施に協力

学術情報チーム[学術情報リテラシー担当]では、教養学部前期課程で新一年生を対象に実施される「初年次ゼミナール」の検索実習（データベースの利用方法の講習）に、駒場図書館と共に全面的に協力しました。

「基礎演習」から「初年次ゼミナール」へ

教養学部前期課程では、文科の新一年生を対象に必修科目「基礎演習」が実施されてきました。学術情報チーム[学術情報リテラシー担当]は、この「基礎演習」の中で、授業を担当する教員の依頼により検索実習を担当してきました。東京大学OPAC等を利用して本を探す方法や、CiNii Articlesや新聞記事データベースを利用して論文や新聞記事を探す方法を含む、初めて大学図書館を利用する学生への入門編の内容でした。

2015年度より、文科では「基礎演習」を変更・改善した「初年次ゼミナール文科」を、理科では、文科の「基礎演習」の経験を共有しつつ、科学的な学術研究のためのチュートリアル授業として新たに「初年次ゼミナール理科」を、それぞれ必修授業として実施することになりました。対象となるのは「基礎演習」同様に新一年生ですが、「基礎演習」と異なるのは文学生だけでなく理学生を対象としても実施されることです。

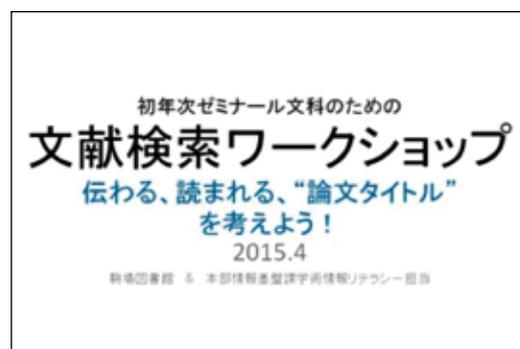
この「初年次ゼミナール」でも検索実習が行われることになり、駒場図書館と学術情報チーム[学術情報リテラシー担当]が全面的に協力しました。作成・配付した検索実習用のテキストは、文科・理科共に、学術情報チーム[学術情報リテラシー担当]が作成しているWebページGACoSから見ることができます。また、検索実習のアンケート集計数は、文科は12回1251名、理科は100クラス開講1156名でした。

初年次ゼミナール文科

ガイダンスに続く2回目の授業で、検索実習とアカデミックマナーについての講義が行われました。このうち検索実習について、駒場図書館と学術情報チーム[学術情報リテラシー担当]が講習を担当しました。

内容はこれまでの「基礎演習」に近いものですが、より実践的に興味を持って実習してもらえよう「伝わる、読まれる、論文タイトルを考えよう!」と題して、実際の学術論文にどのようなタイトルがついているかを調べるものにしました。学生は一人一台ずつクロームブックを使用し、講師のガイダンスに従って、東京大学OPACやCiNii Articlesで検索を行います。データベース・検索ツールの使い分けや、検索で使うキーワードの選び方、図書の出借方法などが盛り込まれており、大学で学習するために必要な基礎的な情報を得ることができます。

実習後のアンケートでは、「こんなにいろいろなツールがあるとは知らなかった」「実際に画面を見ながら練習できてよかった」といった声が聞かれました。



初年次ゼミナール理科

少人数クラスごとに、教員・TAが指導して検索実習が実施されました。

実習内容をそろえるため、全員で視聴できる動画教材を作成することになり、駒場図書館と学術情報チーム[学術情報リテラシー担当]が協力しました。内容は、基本的なデータベース・検索ツールの利用方法や、図書の取寄せ方法などの紹介で、こちらも使い分けやキーワードの選び方などが盛り込まれています。動画教材の作成に当たっては、絵コンテ（画像の案やナレーション、必要な画面操作の指示などを時系列順に記述したもの）の作成、ナレーション収録への立ち会い、内容の確認まで協力しました。この動画教材は、学術情報チーム[学術情報リテラシー担当]が作成しているWebページGACoSから見るができます（学内限定公開）。



開講前には、担当するTA向けに、検索実習の内容紹介を兼ねた講習会を実施しました。駒場キャンパスで開催された初年次ゼミナール理科TA向け説明会の一部として実施したもので、TA向けの解説を付したテキストを配付し、データベース・検索ツールの使い方や指導してほしいポイントについて講習しました。

実習後のアンケートでは、学生からは「早い段階から論文関連の話が聞けるのはとても有益」「冊子と動画が両方あって理解しやすかった」といった声が聞かれました。

来年度に向けて

来年度の実施に向けて、集計した学生向けアンケートや、TA・教員からの声を元に、内容や実施方法の検討がなされる予定です。初年次ゼミナールでの検索実習は、新一年生全体に、大学の学習に必要な基礎的なアカデミック／サイエンティフィックスキルを身に付けさせることを目標としており、大学全体の学術情報リテラシーを担当する学術情報チーム[学術情報リテラシー担当]としては今後も協力していく予定です。今後、初年次ゼミナールで基礎的な情報リテラシーを身に付けた学生が増えることが予想され、学術情報チーム[学術情報リテラシー担当]が現在実施している各種講習会の内容等も見直していくことになると考えられます。

参考Webページ

GACoS *テキスト・動画教材は「講習会教材」のタブから見るができます

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/index.html>

初年次ゼミナール理科のポータルサイト

<https://fye.c.u-tokyo.ac.jp>

お問い合わせメールアドレス

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

(学術情報チーム)

30th International Supercomputing Conference (ISC'15) 参加報告

スーパーコンピューティング研究部門では、2015年7月12日から16日までの間、ドイツのフランクフルトで開催された ISC High Performance 2015 (ISC 2015) に参加し、研究展示を行いました。

ISCについて

ISCは、高性能計算、ネットワーク、ストレージに関する国際会議ならびに展示会です。1986年に初回が開催されて以来、毎年初夏に開催されており、2015年は記念すべき第30回目を数えます。20xy年に開催されたISCはISCxyと省略して呼ばれることも多くなっています。従来は International Supercomputing Conference をISCと省略したうえで開催年を付記していましたが、どうやら今回から、ISCの名前を冠した姉妹会議 ISC Cloud & Big Data と区別するためか、ISC High Performance 20xx という名称を使うようで、次回 ISC 2016 のアナウンスでもこの名称ルールが引き継がれています。

本会議では、スーパーコンピュータのランキングとして知られている TOP500 List の2015年6月版（今回の更新は実際には7月ですが、6月版となっています）が発表され、また招待講演を含む研究発表、チュートリアル、併設ワークショップ等が開催され、さらに展示会では全世界から集まった153の企業や研究機関が展示を行いました。

開催場所はドイツの空の玄関口であるフランクフルトに移り、見本市会場として良く知られている Messe Frankfurt で行われ、総参加者数は2846名でした。今回は2012年以前のハンブルクや2013-2014年のライプツィヒと比べて、日本を含む各国からの交通（航空）の便が良く、また空港および中央駅から会場までの距離も近い、アクセスのしやすい会場でした。現地の環境も、たびたび小雨に降られることはありましたが、概ね晴天に恵まれ、日中の日向を歩くと暑いほどでした。



図1 会場の外観とフランクフルト中央駅の様子

TOP500、Graph500

TOP500 List (<http://www.top500.org/>) の発表は ISC の中でも特に注目の大きなイベントの一つです。TOP500 は世界中のスーパーコンピュータの性能をランク付けするもので、性能の指標としては LINPACK という連立一次方程式を解くベンチマークのスコア（演算性能）が使われています。TOP500 は 1993 年から始まり、年に 2 回、6 月の ISC と 11 月の SC にあわせて更新されてきましたが、今回は ISC が 7 月に開催されたため、発表のタイミングもずれることになりました。ISC における TOP500 の発表は初日のオープニングイベントに続いて行われるのが慣例となっています。

今回の TOP500 は、中国の国防科学技術大学 (NUDT) に設置された Tianhe-2 (天河 2 号、Milky Way-2 と呼ばれる) が 2013 年の ISC から 5 回連続となる 1 位を獲得しました。TOP10 の状況を見ると、前回からの差分はサウジアラビアの King Abdullah University of Science and Technology の Shaheen II が 7 位にランクインしたのみでした。ここ数回の TOP500 は TOP10 など上位の状況に変化が乏しく、また今回ランクインしているシステムの平均稼働年数が 3 年を越えるなど、システムの更新も停滞気味となっています。その一方で 1PFLOPS 以上の性能 (Rmax) を持つシステムの数 が 50 システムから 68 システムへと増加するなど、大規模システムの導入は着実に進んでいます。さらに、2016 年以降には東京大学と筑波大学が共同で調達を進めている PostT2K を含む大規模なシステムの稼働がいくつか予定されていて、TOP500 ランキングにも大きな変化が訪れることが予想されます。

国・地域別のランクイン数については、アメリカが前回とほぼ同じく半数近く (233 システム、約 46%) を占め、日中独英仏が 8% から 5% 程度を占めてそれに続いています。中国は前回 2014 年 11 月の時点で 61 システムをランクインさせていましたが、今回は 37 システムと数を大きく減らしました。日本からは前回より 8 システム多い 40 システムがランクインしていて、最上位は前回と変わらず 4 位にランクインした「京」でした。日本から新規にランクインしたシステムとしては、

国内 3 位 / 全体 27 位にランクインした核融合科学研究所の Plasma Simulator、

国内 5 位 / 全体 53 位にランクインした JAXA の SORA-MA、

国内 6 位 / 全体 54 位にランクインした東大物性研の Sekirei

などがあります。一方、本学情報基盤センターに設置されている Oakleaf-FX は 48 位から 65 位へと順位を下げました。

TOP500 以外にもいくつかのベンチマークランキングが SC と ISC に合わせて更新されています。

Graph500 (<http://www.graph500.org/>) はグラフの探索速度を競うランキングであり、ビッグデータなどの分野において重要な意味を持つため近年注目が高まっています。今回の Graph500 では、「京」が前回 1 位の Sequoia に大きな差を付けて 1 年ぶりに首位を奪還しました。

Green500 (<http://www.green500.org/>) および Green Graph500 (<http://green.graph500.org/>) という電力当たりの性能を比べるランキングも実施されています。しかし、今回は ISC にあわせたランキングの更新は行われませんでした。ExaScaler および PEZY Computing の Shoubu システムの電力当たり性能が注目されていることもあり、期間中に発表されなかつ

たことは残念でした。その一方で BoF では以前より議論が進められていた電力測定方法の統一化に関する説明が行われており、近いうちに新たなレギュレーションへの更新やそれにあわせたランキング作成が行われるようになることが期待されます。

研究発表、ワークショップ、展示

今回の ISC でも多くの研究発表や講演が行われました。

参加者の多くが聴講するキーノートは毎日 1 件ずつ別の分野からの講演が行われました。初日のキーノートでは、ドイツに本社がある自動車企業ダイムラーの Senior Manager である Jürgen Kohler 氏により、自動車設計における CAE 技術の活用についての講演が行われました。2 日目は中国の国防科学技術大学 (NUDT) の Director である Yutong Lu 教授が登壇し、現在世界最高性能を持つスパコン Tianhe-2 にて実施されている研究や今後のシステム増強プランなどについての講演が行われました。

最後のキーノートでは、毎年恒例となっているインディアナ大の Thomas Sterling 教授による最近の HPC 技術を俯瞰した講演が行われました。

ISC は欧州にて開催される最大の HPC イベントであるため、BoF やワークショップにも欧州の動向を反映したものが多くあります。今回の ISC でも、EU における次世代スパコンに向けた活動について紹介・報告を行う Highlights from Europe's Horizon 2020 セッションや、ドイツにおける活動にフォーカスした Germany's Path to Exascale & Extreme Scale Computing ワークショップなどが開催されました。

また、実現の迫るエクサ FLOPS コンピューティングに向けて、Programming Models on the Road to Exascale や Node Architecture: From Present Technology to Future Exascale Nodes といったセッションが組み立てられたり、ExaComm: First International Workshop on Communication Architectures at Extreme Scale や International Activities in Big Data & Extreme-Scale Computing (BDEC) といったワークショップも開催されました。

広いホールを使って行われた Exhibition (大学、研究機関、企業らによるブース展示) では、HPC に関する様々な研究や製品の展示が行われました。特に ISC では欧州の企業・研究機関・プロジェクト等の展示も多く見られる傾向があり、プロセッサからネットワーク、ストレージ、ソフトウェアに冷却装置と様々な展示が見られました。日本からの展示は、大学や研究機関としては我々東京大学 情報基盤センターの他に東京工業大学 学術国際情報センターや理化学研究所 計算科学研究機構、企業としては富士通や NEC らが参加していました。前述の ExaScaler 社および PEZY Computing 社も一体となってブース展示を行っており、稼働システムの大きな写真パネルや計算ボードの静態展示を行っていました。

情報基盤センターによる展示

情報基盤センターは今回で 5 度目となるブース出展を行いました。本センターで運用している計算機システムや研究プロジェクトに関するポスター展示、パンフレット等の配布、研究成果に関する映像展示を実施しました。前回の ISC に引き続き、筑波大学と共同で設立し次期システムの調達に向けて活動を行っている「最先端共同 HPC 基盤施設 (JCAHPC)」についてのポスターも展示しました。今回はまだ仕様策定中のためあまり具体的なシステム情報などは出せませんでした。来年の ISC では次期システムの紹介を前面に出して展

示を行うことを計画しています。

また 15 日には昨年引き続きアジアにおける HPC の動向について紹介・情報交換を行う HPC in Asia セッションが開催されました。セッション内のポスター発表では本センターからも昨年に引き続き 4 件のポスターを展示しました。



図 2 情報基盤センターのブース展示の様子

終わりに

次回の ISC 2016 は、今回と同じくフランクフルトの Messe Frankfurt にて開催されます。開催日程は例年と同時期に戻り、6 月 19 日から 23 日の日程となる予定です。

(スーパーコンピューティング研究部門 大島 聡史、埴 敏博)

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 公募型共同研究平成 27 年度採択課題について

「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」は、北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学にそれぞれ附置するスーパーコンピュータを持つ 8 つの共同利用の施設を構成拠点とし、東京大学情報基盤センターが中核拠点として機能する「ネットワーク型」共同利用・共同研究拠点として、文部科学大臣の認定を受け、2010 年 4 月から本格的に活動を開始しました。

このネットワーク型拠点では、我が国の学際大規模情報基盤の共同利用・共同研究の拠点として、超大規模数値計算系応用分野、超大規模データ処理系応用分野、超大規模データを共有するため等の超大容量ネットワーク技術分野、およびこれらの研究分野を統合した超大規模情報システム関連研究分野、更にはこれらの分野間に亘る複合分野の研究が展開されます。

平成 27 年度の課題公募には 51 件の応募があり、審査委員会による審査を経て、下表の 35 課題（73 共同研究拠点）が採択されました（順不同）。うち、平成 25 年度より運用されているハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ（HPCI）の一部である HPCI-JHPCN システムを利用する課題としては、さらに HPCI 選定委員会での議を経て 27 課題が採択されました。採択課題の分野別の内訳は、超大規模数値計算系応用分野 27 件、超大規模情報システム関連研究分野 4 件、超大規模データ処理系応用分野 1 件、複合分野 3 件でした。また、当センターとの共同研究としては、10 課題が採択されました。

なお、課題募集要項等については以下の Web ページをご覧ください。

【<http://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/>】

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点公募型共同研究平成27年度採択課題一覧

研究課題名の冒頭に * 記号が付いた課題は HPCI-JHPCN システム利用課題

※ 共同研究分野の略称

数：超大規模数値計算系応用分野、 デ：超大規模データ処理系応用分野

ネ：超大容量ネットワーク技術分野、 情：超大規模情報システム関連研究分野

研究課題名	研究課題代表者 (所属)	研究 分野	共同研究拠点
* 大規模データ系の VR 可視化解析を効率化する多階層精度圧縮数値記録（JHPCN-DF）の実用化研究	萩田克美 (防衛大学校)	数	北大、東北大、東大、東工大、名大、京大、阪大、九大
* 時間並列化アルゴリズムの新しい方向性と実用例の探索	萩田克美 (防衛大学校)	数	東大、名大、九大
* 超並列宇宙プラズマ粒子シミュレーションの研究	三宅洋平 (神戸大学)	数	北大、京大
* 核融合プラズマ研究のための超並列粒子シミュレーションコード開発とその可視化	大谷寛明 (核融合科学研究所)	数	名大、京大
* コデザインアプローチによる高性能電磁場解析基盤の確立	岩下武史 (北海道大学)	数	北大、京大

* Xeon Phi・ベクトル計算機へのFDTDコードと電磁流体コードの最適化手法の研究	深沢圭一郎 (京都大学)	情	北大、東北大、東大、京大、九大
* 太陽磁気活動の大規模シミュレーション	横山央明 (東京大学)	数	東大
* 乱流混合と内部自由度のあるマイクロ粒子巨大集団との相互作用	後藤俊幸 (名古屋工業大学)	数	名大
* フェーズフィールド法と分子動力学法による大規模デンドライト成長シミュレーション	高木知弘 (京都工芸繊維大学)	数	東工大
* 分子動力学計算ソフトウェアMODYLASのメニーコアアーキテクチャ対応並列化に関する研究	安藤嘉倫 (名古屋大学)	数	東大、名大
* 可動な分散粒子を含む金属材料における多結晶粒成長の大規模マルチフェーズフィールドシミュレーション	山中晃徳 (東京農工大学)	数	東工大
* 超多自由度複雑流動現象解明のための計算科学	石原卓 (名古屋大学)	数	名大
* 熱中症リスク評価シミュレータの開発と応用	平田晃正 (名古屋工業大学)	数	東北大
* 計算資源の連携を目指した将来のサイエンスビッグデータ共有機構の開発	松岡聡 (東京工業大学)	デネ情	北大、東大、東工大、九大
* 階層分割型数値計算フレームワークを用いた3次元電磁界解析の高速化研究	杉本振一郎 (諏訪東京理科大学)	数	東大、名大
* Fast Multipole Methodを用いた多種アーキテクチャ向けスーパーコンピュータ用ライブラリの開発と分子・流体シミュレーションでの評価	成見哲 (電気通信大学)	数	東北大、東工大、名大、京大
* 渦の動力学に基づく乱流生成とその維持機構の理解	伊澤精一郎 (東北大)	数	東北大
* クラウドを活用したビッグデータポスト処理環境実現のためのデータ伝送実験	村田健史 (情報通信研究機構)	情	名大、京大、阪大、九大
* 次世代降着円盤シミュレータの開発	松元亮治 (千葉大学)	数	東大
* 航空機の環境適合性・安全性向上に向けた大規模数値解析手法の研究	佐々木大輔 (金沢工業大学)	数情	東北大、名大、九大
* グリーンランド氷床モデルを用いた2.5次元理論地震波形計算	豊国源知 (東北大)	数	東北大
* 科学技術計算における効率の良い複数拠点利用とそれを実現するユーザ駆動型・拠点協調フレームワークの開発と検証	實本英之 (東京大学)	数情	北大、東大、東工大、九大
* 超大規模シミュレーションのためのアーキテクチャ特性を考慮した通信削減技術	遠藤敏夫 (東京工業大学)	数	北大、東北大、東大、東工大
* 大規模GPU/CPU計算に向けた高生産フレームワークの構築とこれを用いた都市気流計算コードの開発	下川辺隆史 (東京工業大学)	数	東工大
* 動的負荷分散によるGPUスパコンを用いた粒子法の大規模シミュレーション手法の開発II - 流体・構造連成計算への適用 -	青木尊之 (東京工業大学)	数	東工大
* 環オホーツク圏の海洋・大気シミュレーション	中村知裕 (北海道大学)	数	北大
* 大規模計算結果の効果的な利用に向けた高精細可視化イメージ遠隔配信システムの実証	阿部洋文 (筑波大学)	情	東北大、阪大
行列分解のタイルアルゴリズムの高並列環境における最適化	鈴木智博 (山梨大学)	数	東大
次世代トランジスタの量子輸送シミュレーションに関する研究	森伸也 (大阪大学)	数	阪大
海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション	竹中博士 (岡山大学)	数	東大、東工大
分子性液体の積分方程式理論による大規模生体分子系における高速な溶媒和自由エネルギー計算プログラムの開発	丸山豊 (理化学研究所)	数	東北大、東工大

社会・経済データの実証分析	大西立顕 (東京大学)	デ	東大
社会インフラの破壊・非破壊シミュレーションの高度化に資する大規模数値解析	中畑和之 (愛媛大学)	数	京大
流体・固体連成を考慮する防災計算力学	牛島省 (京都大学)	数	京大
次世代スーパーコンピューター向けの軽量な仮想計算機環境の実現に向けた研究開発	品川高廣 (東京大学)	情	東大

(学際情報科学研究体 佐藤 芳樹)

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 第7回シンポジウム開催報告

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点では、7月9日（木）・10日（金）に「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点第7回シンポジウム」を THE GRAND HALL（品川）で開催しました。当日は167名の参加者（大学109名、独法等研究機関24名、企業他34名）を迎えました。

「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」（以下、当拠点）とは、北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学のスーパーコンピュータを所有する8つの共同利用施設を構成拠点とし、東京大学情報基盤センターがその中核拠点を担う「ネットワーク型」の共同利用・共同研究拠点です。毎年度、共同研究の公募・採択を行い、当拠点との共同研究を実施しています。

今回のシンポジウムは、平成26年度に実施された公募型共同研究34課題の口頭発表による最終報告および平成27年度公募型共同研究に採択された全35課題のポスター発表による研究内容紹介を実施しました。口頭発表、ポスター発表ともに、一般の参加者も交えた活発な質疑や意見交換が行われました。

シンポジウム初日には、中村 宏 総括拠点長（東京大学情報基盤センター長）による主催側挨拶と、榎本 剛 文部科学省研究振興局参事官（情報担当）の来賓挨拶がありました。それに続けて2日間にわたり、公募型共同研究が対象としている超大規模数値計算系応用分野、超大規模データ処理系応用分野、超大容量ネットワーク技術分野、超大規模情報システム関連研究分野およびこれらの分野にまたがる複合分野研究の研究結果発表および研究内容紹介が行われました。

閉会では、合田 憲人 共同研究課題審査委員長（国立情報学研究所 教授）からシンポジウム全体のサマリーを含めた挨拶があり、シンポジウムは盛会のうちに終了しました。

当シンポジウムのプログラム、平成26年度採択課題の最終報告書および平成27年度採択課題の発表ポスターは次の URL から参照可能です。

■学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点第7回シンポジウムホームページ

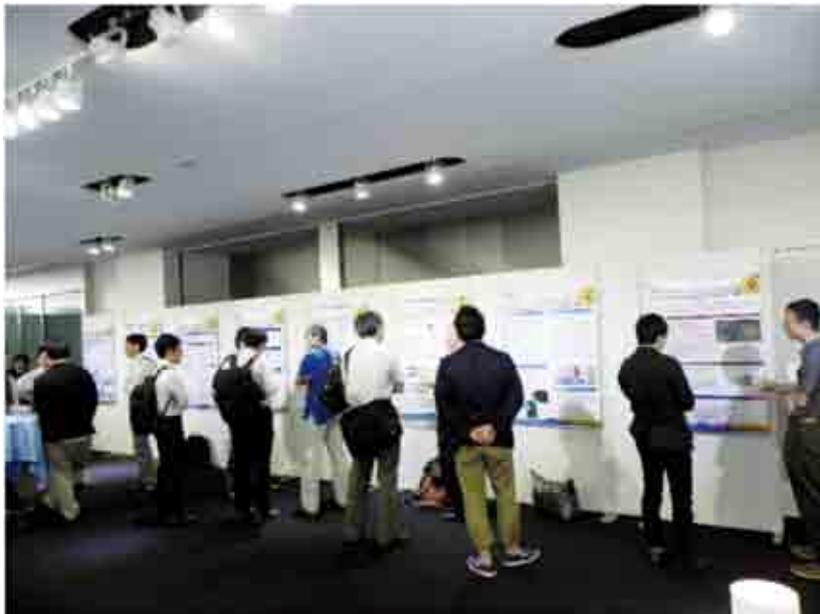
<http://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/sympo/7th>



榎本文部科学省研究振興局参事官
(情報担当)



発表および会場内の様子



ポスター発表の様子

(学際情報科学研究体 佐藤 芳樹)

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 ACSI 2015 JHPCN Special Session 開催報告

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点では、当拠点の研究成果を発信し、関連する研究者コミュニティとのインタラクションを目的として、情報処理学会が主催する Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (ACSI) 2015 を協賛し、1月28日(水)につくば国際会議場にて JHPCN Special Session を開催しました。ACSI は、2003 年から開催されていた SACSIS が発展的に終了し、より国際発信力を高め、新たに企画された会議です。当日、セッションへは大学や企業を含め28名の参加者を迎えました。開会にあたり中村宏 総括拠点長(東京大学情報基盤センター長)による挨拶と趣旨説明があり、続いて平成25年度、26年度の採択課題の中から特に優れた研究成果として超大規模数値計算系応用分野3件、超大規模情報システム関連分野2件の研究成果の発表が行われました。

Development of Scalable Plasma Particle Simulator with OhHelp Dynamic Load Balancer,
三宅洋平(神戸大学)

Application of GPGPU to Seismic Hazard Assessment, 青井真(防災科学技術研究所)

Study of Efficient Data Compression by JHPCN-DF, 萩田克美(防衛大学校)

Building Large-Scale Distributed Design Exploration Framework by Collaborating
Supercomputers and Inter-Cloud Systems, 棟朝雅晴(北海道大学)

Toward Lightweight Virtual Machine Environments for Next-generation Super Computers,
品川高廣(東京大学)



セッションの様子

(学際情報科学研究体 佐藤 芳樹)

現場の声 Vol. 1 ～ ネットワークと私 ～

新人としてネットワークチーム（旧ネットワーク係）に配属されてから4年目も半ばとなりました。配属から3か月で情報システム部との統合、今年度末には SINET 接続切り替えと中々大きな節目の時期に立ち会えたように思います。

今回思いがけず記事を書く機会を頂きましたので、簡単に私の仕事の内容を紹介しつつ思ったことなど書いていきたいと思っています。

基幹ネットワークスイッチの設置・運用

大学の外の世界や各キャンパス間を繋ぐ L3 スイッチや、支線ネットワークと基幹ネットワークを繋ぐための L2 スイッチを各建物に配置・運用しています。部局担当者からの申請に応じた設定の変更、定期的な予防交換、障害発生時の対応などが主となりますが、最近では建物の耐震改修などの理由で機器の新設・再配置を行うことも増えています。

また、一部では機器のマルチベンダ化が進みつつあり、運用法を学ぶのに苦労しています。

ネットワーク資源の管理（IP アドレス、ドメイン、光ファイバ）

東京大学で使用されている3つの B クラスアドレスや u-tokyo ドメイン、各建物同士を繋ぐ光ファイバなどの資源の管理をしています。一般的なユーザの方々は普段あまり意識することのないものですが、大学のネットワークを構成する非常に重要な要素です。

無線 LAN 運用

山上会館や弥生講堂などのホール、会議室をはじめとした一部の施設において、当該施設利用者向けの無線 LAN サービスを実施しているほか、全学無線 LAN（utroam）やゲスト用アカウントの運用にも携わっています。モバイルデバイスの普及もあってか、最近ユーザ対応件数の増加が最も目立つと感じるものがこの分野です。

単純に「接続できない」というお問い合わせをいただくことがありますが、大抵は FAQ や設定ガイドなどを読めば対応可能なことであつたりします。私自身普段の業務でも感じるのですが、自分で色々と調べてみるこそが適切な運用と理解に繋がります。

サーバ管理

上記にもあったドメインの管理用の DNS サーバや、GPS から時刻を取得して学内向けに提供する NTP サーバ、部門で運営している Web サーバなど、様々な用途のサーバがあり、その管理に携わっています。ソフトウェアのアップデートやコンテンツの更新等が主となりますが、最近では（少なくとも私には）複雑な証明書の管理で頭を抱えたりしております。

最後に

既に電気や水道と同じような、使えて当たり前のインフラとなったネットワークですが、皆様の使う「ネットワーク」がどのような技術によって実現されているのか、また、自分がどのようにどんな「ネットワーク」に参加しているのか。本記事がそれらに興味を持つきっかけとなることができれば幸いです。

(ネットワークチーム 駒井 優哉)

教育用計算機システム（ECCS）相談員の声

私は、教育用計算機システム（ECCS）相談員として、駒場キャンパスの情報教育棟や図書館で4年間（うち半年間は本郷地区を兼務）、同システム利用者の質問対応を行ってきました。このなかで感じたこと、またECCS相談員と学生の教育活動のかかわりについて、いくつか述べさせていただきます。

相談員席の一年

駒場地区で勤務するECCS相談員にとって、毎年春は新生生のユーザを迎え大繁盛する季節です。大学に入るまであまりパーソナルコンピュータを使ったことがなかった方もいらっしゃるでしょうし、またECCSの環境は印刷のやり方などがやや特殊なこともあって、様々な質問が集中します。また、スマートフォンやノートブックで学内無線LANに接続できるようにしてほしい、という質問も多く寄せられます。

こうした頻出の質問への対応自体は、数の面で多少の変動はあるにせよ、一年を通じて大きく変化するものではありません。しかし、相談者がECCSで行おうとしている作業をみると、学部前期課程学生の「生態」が見えてくるのです。

新年度はMacの基本操作や履修登録、五月祭に向けてのポスターやチケットを印刷する利用者が増えます。それらが一段落すると、授業のレポート課題を印刷・提出する相談が、学期末をピークに多く寄せられます。後期（Aセメスター）には質問の数は多少減りますが、年度末になってサークルの新歓チラシ印刷のために初めてECCSのプリンタを利用する、という利用者もあり、相談員は気を抜けません。

ことに駒場キャンパスの学部学生にとってECCSは情報の「結節点」であり、授業・課外活動の別なく学生の様々な作業が行われる場になっています。それらを俯瞰し、東大生の様々な活動を知ることができるというのも、相談員業務のひとつの楽しみなのではないかと思っています。

「ワン・ストップ相談窓口」としての相談員

ティーチング・アシスタントをはじめとして学生が学生の質問に対応する制度は学内にいくつかありますが、なかでもECCS相談員は人の集まる箇所に配置され、また朝から夜遅くまで（一時限ごとの交替制）勤務していることもあり、最も気軽に訪れることができる窓口のひとつなのではないでしょうか。

ECCS相談員の業務はあくまで「ECCSに関する質問を受け付ける」ことですが、先述したように様々な活動がECCSを用いて行われていることもあり、ときにはECCSと直接関係がない知識が必要になることもあります。例えば、近くのコンビニに行けば解決する、という質問もたまにはあります。履修登録や課題提出の方法についても、学生の相談員であれば同じことを自身でやった経験があるかもしれません。

もちろん個々の相談員によって対応できる範囲に違いはありますが（学部一年生の質問については同学年のほうが詳しい、という場面もままあります）、大学生活での、特に事務的な事項については、相談員が解決への一番の近道になっているといっても、言い過ぎ

ではないでしょう。

相談員が対応できないこと

ときには相談員には対応が難しい質問が寄せられるケースもあります。代表的なのが、授業の課題それ自体に関する質問です。課題の内容をよく知らないまま無責任に回答することはできませんし、教育上の理由からも安易に相談員が答えてはいけないものです。とはいえ、課題がうまくいかないのがECCS特有のクセや障害に起因していることも考えられる場合、質問自体はお伺いしたうえで、教科書や教材の参考になりそうな部分を示す程度のアドバイスをすることはあります。

ECCSを使う課題について「全く分からないんです」などと泣きつかれることがたまにありますが、学生の利用者には、相談員もしょせん同輩の学生であることをご理解いただければと思います。統計処理などの複雑なコンピュータ操作を要する課題には、専門のティーチング・アシスタントを配し、講義時間外にも質問を受け付けられるようなバックアップ体制が整えられるとよいのではないかと、学生の立場としては考えております。

(システム相談員 横山 秀)

ECCS 相談員とは : ECCS に関するユーザからの質問や相談に対応する、本学学生によるアルバイトスタッフです。

詳しくは以下のページをご覧ください。

<http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/system/sodan.html>

新任教職員紹介

工藤 知宏 (くどう ともひろ) 教授 ネットワーク研究部門



2015年4月にネットワーク研究部門に着任しました工藤と申します。

私はこれまで産業技術総合研究所で、主にネットワークと計算機システムを融合したIT資源管理の研究に携わってきました。現代社会は情報技術の進展に支えられて発展してきましたが、今後計算機システムの単純な性能向上は困難な状況になりつつあります。一方、最近、「ビッグデータ」、「サイバーフィジカルシステム」が注目を集めているように、計算機とネットワーク、エッジデバイス、そしてデータを融合させて、従来の枠組みとられない新しい情報システムを構築することが重要になってきています。その中で人間の能力をどのようにサイバーシステムと連携させるかも大きな課題です。情報基盤センターには、高性能計算、高速ネットワーク、大規模なデータ、そして大人数が利用する計算機環境と、それらを支える人的資源があり、今後の情報システムの研究を進めるのに最適な場と言えます。情報基盤センターの使命である東京大学の根幹をになう情報基盤の安定運用に貢献するとともに、未来の社会を支える新たな情報システム構築技術の開発に向けて微力を尽くしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

稲垣 博明 (いながき ひろあき) 情報システム部長

2015年4月1日付けで、情報システム部長として着任いたしました稲垣と申します。前任地は柏キャンパスで、WPI世界トップレベル研究拠点であるカブリ数物連携宇宙研究機構に4年間在籍し、WPIの目標である最高のサイエンス、国際化、融合研究のブレークスルー、研究及び組織運営におけるシステム改革を達成することで、世界で「目に見える研究拠点」となるべく、機構長、事務部門長のもと、一体感を持って課題に向き合っていました。この度の浅野キャンパスへの異動は、個人的には弥生キャンパスから本郷キャンパス、駒場Ⅱキャンパス、柏キャンパスと5キャンパス目となります。業務内容も補助金による組織整備事業から、本学の教育研究推進業務を担当することになりました。本学の教育研究への支援、法人管理業務等の基盤としての情報資源の最適化、効率化、情報セキュリティ環境の向上に果たす情報システムを構築すべく、微力ながら力を尽くしてまいり所存です。皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

茅根 修（ちのね おさむ）
本部情報戦略課長

2015年4月1日付けで、情報戦略課長に配属となりました茅根（ちのね）と申します。よろしくお願いいたします。

文学部をスタートに本部人事課、農学部、教養学部、本部広報課、カブリ数物、本部産学連携課を経験し、この度この情報基盤センター3階にお世話になることになりました。これまでは、一ユーザーとして情報基盤センター、情報システム部の皆様に大変お世話になってまいりましたが、今後はユーザーの皆様のために職務を遂行していかなければならないということで、大変身の引き締まる思いであります。

情報システムに関する専門的な知識はほとんど持っておりませんので、当分の間は皆様に多大なご迷惑をおかけすることになるかと思いますが、何卒ご配慮くださいますようお願いいたします。

納 朋子（なや ともこ）
本部情報戦略課一般職員
会計チーム

4月1日付にて会計チームに配属となりました、納朋子と申します。

3月に本学教育学部を卒業したばかりであり、現在は業務に不慣れでご迷惑をおかけすることばかりですが、一刻でも早く戦力となれるよう努力致します。

よろしくお願いい致します。

中川 郁美（なかがわ いくみ）
事務補佐員
本部情報戦略課会計チーム

2015年5月1日付で、情報戦略課会計チームに採用されました、中川郁美と申します。

前職では、関西の私立大学にて学務の仕事に従事しておりました。関東暮らしは初めてなので、日々新鮮な驚きの連続ですが、この数ヶ月でようやく満員電車やエスカレーターの乗り方にも慣れて参りました。

業務ではまだまだ不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけすることが多々あるかと存じますが、少しでもお役に立てるよう精進して参りますので、何卒宜しくお願いい申し上げます。

小林 正明 (こばやし まさあき)
本部情報戦略課一般職員
情報戦略チーム

2015年4月1日付で、本部情報戦略課情報戦略チームに配属されました小林正明と申します。

文科省所管の機関から東京大学に移って以来、附属病院に勤務してまいりましたので、病院以外の大学のことはほとんど分からない状況で戸惑うことばかりですが、少しでもお役に立てるようなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

野崎 一美 (のざき ひとみ)
事務補佐員
本部情報戦略課情報戦略チーム

2015年4月1日付けで事務補佐員として採用されました野崎一美と申します。最初は私に勤まるのかと心配していましたが、周りの皆様に助けていただき少しずつ慣れてまいりました。聞きなれない用語の中で異国にいるようですが、少しでも知識を得ようと毎日学ばせていただいています。日々進化する技術の情報を少しでも吸収するように毎日あちこちに目や耳を向けて過ごしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

清水 郁子 (しみず あやこ)
本部情報基盤課主任
学術情報チーム

2015年4月1日付で、情報基盤課学術情報チームに配属となりました清水郁子と申します。昨年度は附属図書館から、実務研修生として文部科学省へ出向していました。現在は、東京大学で利用できる様々な検索ツール、データベースを講習会等で学生さん、教職員の皆様にご紹介しています。一口に図書館関連業務と言っても、その仕事の幅は広いということを実感する日々です。喋るのが遅めなので、伝えたいことと講習会の持ち時間のバランスを取るのに苦心しています。

また、講習会で扱うツールの多様さと共に、本学の学問・研究分野の幅広さに驚かされています。講習会では各キャンパスへ出向くことも多く、いろいろな方にお会いできるのを楽しみにしています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

石田 唯 (いしだ ゆい)
本部情報基盤課一般職員
学術情報チーム

2015年4月1日付けで情報基盤課学術情報チームデジタルライブラリ担当に異動してまいりました石田唯と申します。

3月までは法学部研究室図書室図書整理係で、法学部で受け入れた図書の目録作成、分類、装備といった業務を行っておりました。現在は、主に東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository) の管理を担当しています。「学術機関リポジトリ」とは、東京大学で生産された論文などの研究成果を電子的な形態で蓄積し、誰でも無料で、インターネット上で研究成果を読むことができるよう公開しているものです。

3月までは紙の本に囲まれた生活でしたのに、論文など今まで扱ってこなかったタイプの資料、そして電子的で実体の無い資料を相手にすることに戸惑いつつですが、日々勉強し、精進していきたいと思えます。

学術情報チームは総合図書館の共同利用棟、高床式のプレハブで暮らしています。少し離れていますのでお会いする機会は少ないと思えますが、多々お世話になることがあるかと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

並木 登美幸 (なみき とみゆき)
本部情報システム支援課係長
情報システム支援チーム

2015年7月1日付で、情報システム部情報システム支援課情報システム支援チームに着任いたしました並木です。6年前は本部棟4階で、名称が情報課や情報化推進グループなどと呼ばれていた時代に在籍しておりました。当時は共通IDやICカード職員証・学生証の導入等でドタバタしていたことを覚えています。

その後、東大を出て国立情報学研究所にお世話になり、学術認証フェデレーションやサーバ証明書などに携わる業務に3年間従事しました。ふたたび東大に戻ってきた先は農学部経理課となり、不動産関係の仕事をしてきました。特に西東京キャンパス整備計画に関する業務の比率が高く、開発においてはオオタカへの配慮が必須であったため、その生態に関する知識はかなり蓄積されました。その他、上野博士とハチ公像の設置についても学内合意に到達するまでの道は厳しく、対応していくうちにハチ公の物語に詳しくなっていました。

しばらく情報系の業務から離れていたこともあり、当初は隔世の感もありましたが、情報基盤センター内には以前からの顔見知りの方も多く、懐かしい気持ちと共にかつての感覚が蘇りつつあります。

皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

津田 弥恵 (つだ やえ)
事務補佐員
学際情報科学研究体

2015年4月1日付で、学際情報科学研究体に採用されました津田と申します。数年前まで大阪に住んでおり、大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センターでも事務補佐員をしておりました。皆様にはご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、何卒ご指導いただけますようよろしくお願いいたします。

問い合わせ先

教育本郷チーム・教育駒場チーム

<http://media.itc.u-tokyo.ac.jp/>

教育用計算機システム (ECCS) <http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

MailHosting サービス <http://mh.itc.u-tokyo.ac.jp/>

mailhosting-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

WEB PARK サービス (Web ホスティングサービス)

<http://park2014.itc.u-tokyo.ac.jp/>

park2014-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：駒場 44403

DNS ホスティングサービス <http://dh.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

dh-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

WebDAV サーバ http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/system/network_storage.html

ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

リモートアクセス環境 <http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/system/outside.html>

ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

携帯端末接続環境 <http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/system/mobile.html>

ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

全学無線 LAN サービス用 AP 提供サービス

http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/mobile_bukyoku_2014.html

utroam-ap-rental@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

講義用 WWW サーバ <http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

学習管理システム ITC-LMS <https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

lms-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：駒場 44402

教材作成支援 <http://elearn.itc.u-tokyo.ac.jp/editing.html>

elearn-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23002 駒場 44403

遠隔講義 会議システム <http://elearn.itc.u-tokyo.ac.jp/dist-edu.html>

DistEdu-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23002 駒場 44403

ストリーミング、インターネットライブ中継

<http://elearn.itc.u-tokyo.ac.jp/streaming.html>

elearn-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23002 駒場 44403

学術情報チーム

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>
kiban-dl@itc.u-tokyo.ac.jp

GACoS (Gateway to Academic Contents System) <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/>
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

内線：22649

東京大学 OPAC <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

MyOPAC <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/myopac/>

携帯電話版 <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/iecats/>

・東大附属図書館 ASK サービス <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ask/>

内線：22649

・システム障害 syskan@lib.u-tokyo.ac.jp

内線：22614

E-JOURNAL PORTAL <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ext/ejportal/>

・東大附属図書館 ASK サービス <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ask/>

内線：22728

東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository) <http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>
digilib@lib.u-tokyo.ac.jp

内線：22728

東京大学学位論文データベース <http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gakui/>
digilib@lib.u-tokyo.ac.jp

内線：22728

学術研究支援ツール <https://mbc.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/tools/>

kiban-dl@itc.u-tokyo.ac.jp

情報探索ガイダンス、出張講習会

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

内線：22649

レポート・論文支援ブック

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/supportbook.html>

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

内線：22649

Litetopi (メールマガジン) <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/litetopi.html>

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

ネットワークチーム

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学情報ネットワークシステム (UTnet) <https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/>

・ 一般

nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp

内線：22750 03-5841-2750

・ 申込み手続き

request@nc.u-tokyo.ac.jp

内線：22750 03-5841-2750

・ 基幹ネットワークの通信障害

nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp

内線：22748 03-5841-2748

ネットワークセキュリティ <https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/security/>

ut-security@nc.u-tokyo.ac.jp

内線：22711

迷惑メール対策サービス (メールサーバ管理者向け)

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/security/antispam/>

antispam-support@nc.u-tokyo.ac.jp

内線：22711

UTnet 無線 LAN 接続サービス <https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/riyou/wlan/wlan.html>

nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp

内線：22750

学内での公衆無線 LAN サービス

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/riyou/public-wl.html>

サーバハウジングサービス

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/riyou/housing/housing.html>

nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp

内線：22750

全学無線 LAN サービス (utroam) <http://utroam.nc.u-tokyo.ac.jp/>

utroam-adm@itc.u-tokyo.ac.jp (部局管理者用)

utroam-trouble@itc.u-tokyo.ac.jp (利用者用)

ソフトウェア管理チーム

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/>

ソフトウェアライセンス（ウイルス対策ソフト含む）

<http://www.software.itc.u-tokyo.ac.jp/>

software-license@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：20540

スーパーコンピューティングチーム

<http://www.cc.u-tokyo.ac.jp/>

スーパーコンピュータシステム

問い合わせ方法のご案内

<http://www.cc.u-tokyo.ac.jp/support/reference.html>

- ・利用申込み関係、手引き等請求

uketsuke@cc.u-tokyo.ac.jp

内線：22717, 82717 03-5841-2717（研究支援チーム）

- ・プログラム相談、システム利用に関する質問

FX10 専用

soudan-fx10@cc.u-tokyo.ac.jp

SR16000 専用

soudan@cc.u-tokyo.ac.jp

- ・システムに関する要望・提案

voice@cc.u-tokyo.ac.jp

学際情報科学研究体

学際大規模情報基盤共同利用 共同研究拠点

<http://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/>

PKI

<http://www.pki.itc.u-tokyo.ac.jp/>

SSL-VPN Gateway サービス <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/sslvpn/service.html>

sslvpn-soudan@itc.u-tokyo.ac.jp

サーバ証明書 <http://www.pki.itc.u-tokyo.ac.jp/cerpj/>

PublicServerCertificates@itc.u-tokyo.ac.jp

○本センターのサービスに関するご相談：conciierge@itc.u-tokyo.ac.jp



※各サービスの窓口は、巻末の問い合わせ先をご覧ください。直接お越しになる時は、サービスによって場所が異なりますので事前にご確認ください。

東京大学情報基盤センター
Information Technology Center, The University of Tokyo

(本郷) 〒113-8658 東京都文京区弥生2-11-16
TEL:03-5841-2710 FAX:03-5841-2708
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 総合図書館内
(駒場) 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 情報教育棟内
(柏) 〒277-8589 千葉県柏市柏の葉5-1-5 第2総合研究棟内

東京大学情報基盤センター広報誌
Digital Life Vol.25 (2015.9)

編集・発行
東京大学情報基盤センター広報委員会
Digital Life 編集長：関谷 勇司
Digital Life 編集スタッフ：品川 高廣、関谷 貴之、佐藤 一誠、塙 敏博、
佐藤 芳樹、早野 裕士、清水 隆志